

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市富沢児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 66,263人(前年度比 105.7%) 令和5年度 62,700人 令和4年度 55,223人
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的をした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 113,087千円 (94,985千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、地域運営懇談会、児童館利用者座談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	31/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。 なお、中高生に遊戯室以外の過ごし場の場を設けた事で日常的な利用に繋がり、学校や保護者との連携が図られている。 また、乳児親子が利用しやすい環境を整えると共に、職員が行事の内容や雰囲気、支援の良かった点や課題点等を記録し共有した。支援の内容や経過、課題について全職員で共有することで、以前の様子を踏まえた声かけや同じ視点での継続した支援に繋げている。相談内容から保護者のニーズを捉え、講話や講座の開催にも繋げている。	21/19

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター）による自己評価》
＜児童健全育成事業＞ 土曜日に体験型の行事を入れるなど小学生の自由来館児童の受け入れを工夫した。土曜日に不登校児童も柔軟に受け入れられる体制を構築した。中学生の利用は、運動だけでなく、ボードゲームを楽しんだり、小学生とオセロをしたり多岐に渡るようになった。高校生はボランティアにも参加するようになり、将来の夢を語る姿も見られた。児童館が地域の中高生の居場所となっていた。 ＜子育て家庭支援事業＞ 年齢や利用日のニーズが変化した。0・1歳児の増加、父親利用の姿もあり、行事の曜日や時間に幅を持たせた。保育園に多く通うようになる2歳児以上の行事は土曜日開催を多めにした。両親で参加したり料理の体験ができたり、地域のコミュニティーができた。大野田たんぽぽホームの子どもたちや保護者と過ごす時間もつくり、インクルーシブ支援の取り組みを始めることができた。 ＜地域交流推進事業＞ 富沢小学校のあおぞら合唱団と富沢中学校合唱部の合同演奏会を実施した。合同練習では小学生が中学生の間に練習した。コンサートは、幼児からお年寄りまで来館し、歌声に涙する方も多かった。高学年中学生ジュニアボランティア「トミザワイレブン」は、子どもたちの意見を取り入れての畑づくりや夏の行事など更に主体的に活動することができた。地域のお祭りのステージには企画段階から職員が参加し、児童クラブ児童を中心に延べ100名以上の児童が発表した。地域との繋がりが強まった1年となった。 ＜放課後児童健全育成事業＞ 夏休み前には400名を超える登録があった。毎日の全体ミーティングに加えて、各サテライト室の打ち合わせをし、支援の状況や子どもたちの様子がわかるようにした。野外活動、地域ボランティア、外国の文化に触れる行事、非常食体験など職員一人一人が行事を企画し子どもたちの心と体の成長に繋げる支援ができた。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
児童健全育成事業においては、小中学生対象とした土曜日の体験型行事の開催は、来館のきっかけとなり自由来館者の増加に繋がった。中高生専用時間以外にも日常的に中学生が利用しており、小学生との遊びを通じた交流も図られている。中学生の利用の増加に伴い児童館職員と中学校との情報共有の機会も増え、地域交流推進事業の行事に展開されるなど連携強化に繋がっている。 子育て家庭支援事業においては、近隣の関係機関や地域の人材資源を活用した育児相談や保護者のリフレッシュ、乳幼児への遊び等の多彩なプログラムを提供している。平日の児童館利用が難しい3歳児以上の幼児親子を対象とした行事を土曜日に実施したり、0歳児対象行事の活動内容や環境構成、乳児親子や保護者の様子、職員の支援等について日誌として記録し、職員間で共有しながら次の支援へ繋げている。また、母親ボランティアと職員による先輩ママお役立ち情報を作成・掲示したり、多胎児支援では妊娠中の保護者も受け入れ、出産前からの支援を行うなど、保護者のニーズに合った多彩な取り組みを行っており、地域の子育て支援の拠点として役割を果たしている。 地域交流推進事業においては、中学校との連携のもと地域の小学生と中学校の合唱部の合同コンサートを開催し、多くの地域の方が来館する機会となった。また、乳幼児対象のお祭りにおいては、地域の方の申し出を受けてコーナーを地域の方が担当し、乳幼児親子と交流を図るなど、多彩な取り組みを通して地域交流を深めながら児童館事業の認知向上に努めている。 放課後児童健全育成事業においては、「ブックforサテライト」をそれぞれの場所で実施し、学年に合わせて選書しながら様々な本に触れる機会を提供したり、本館・サテライト室での多様なイベントや日々の遊びの充実など、いずれの環境においても毎日を楽しむ工夫を行っている。 また、職場内研修の年間計画を作成し、児童館ガイドライン、放課後児童クラブ運営指針、児童福祉法、指定管理制度等多様な内容で実施し、児童館事業、児童理解・支援や職責について確認共有しながら、職員の資質向上に努めている。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課